



# カメラ探訪

## 文学のふるさと

その21 水俣市



### 「毛銭詩集」

— 瀧上 毛銭 —

瀧上毛銭は、大正4年水俣市陣内の旧家に生まれた。本名は喬。一時は上京したが異郷での生活に疲れて帰郷、さらにカリエスを病み、15年もの間、寝たきりの生活をおくる。長い病床にあった彼は、郷土の自然や民情を素直に歌い、ユニークな詩風、メルヘン風のタッチの中で「誕生」「毛銭詩集」の二冊を残し、昭和25年短い生涯を閉じた。彼の墓石の裏には「生きた、臥た、書いた」の文字が刻まれている。

わたしの  
ふるこの  
郷土

阿蘇郡長陽村立長陽小学校 六年 長野 昌代

わたし達の住んでいる長陽村は、世界一の阿蘇カルデラ内にある人口五千ぐらいの村です。小学校が三校、中学校一校、保育園、大学があります。大学があるのは、日本でも珍らしい村です。

冬には、雪が積もる寒い村でよく雪が積もることがあります。家の中から見た外の景色は、一面銀世界で、とてもきれいです。近所の子供達と雪合戦をしたり、かまくらを作ったりしてもあまるほど積もることがあります。

春になると、きれいな花々が咲いて、田んぼにはせりがたくさんあり、草むらにはつくしがたくさん顔を出します。せりやつくしをつんで食べることもできるようになります。

夏は、村民プールで水泳記録会が開かれたりします。わき水のたまっているプールは、ひんやりして夏の暑い時には最適です。広いプールは、村の人に大へん役立っています。

秋には、くりの実がなったり、あけびやかき、ざくろ、とうもろこしと、たくさん食べ物が収穫され、くり捨いなどには良く行きます。かきは、ちぎってすぐ食べるのが特においしく感じるようです。秋の終わり頃になると、サイロづめといって冬に牛や馬などが畜にやるえさがつくられます。とうもろこしなどが、その材料になります。

産業としては、農業が主でお米や麦などが収穫されています。たばこもつくられており、広々とした田畑に所せましと広がっています。

又温泉が地獄、垂玉、湯の谷、戸下、栃木と五つもあり、病気にも効くので他の地方でも大変有名です。このように自然に恵まれている長陽村も、いつかは破かいされ、工業地になると思います。村の発展も大切だと思うけど、自然も大切です。自然をこわさない村の発展方法が早く見つかるよう願っています。